なぞり書き 010　和歌をなぞろう

carepoke

薄い文字をゆっくりなぞりましょう

これやこの
行くも帰るも
別れては
知るも知らぬも
逢坂の関

作者： 蝉丸　**年代：** 平安時代　**出典：**『後撰和歌集』

意味　都から出ていく人も帰ってくる人も、知り合いも知らない人も、ここで出会い、別れていきます。
ここが、あの逢坂の関なのだなあ、という歌です。